

屋外

屋外で人物を撮影する

屋外で最も考えなければいけないのは太陽の光だ。快晴だと、実は写真撮影は難しくなる。少し曇っているくらいがベターだ。晴れた日に撮影するときは、少し日陰になっているポイントで撮影すると失敗しにくい。

Point 1 晴れているからこそ、フラッシュ

陰影を消したい……



太陽光の向きに応じて、影が消える方向から光を。また左右一方から光が当たると、明け方や夕方のような印象になる。仕上がりはその場で確認しておきたい。光の強さによっては白トビするからだ。

Point 2 常に太陽の位置を確認

光の強さ、当てる向きに注意



日光は被写体の陰影を強くするので、逆光の場所に移動し、なるべく近くによって正面からフラッシュの光を当てると顔がきれいに写る。ただしまぶしそうな表情や髪の毛の影がでないように。

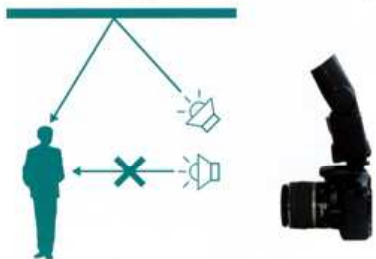
屋内

室内で人物を撮影する

企業重役などの場合は、やや下側から撮影すると威厳がでる。反対に同じ重役でも新会社の社長や、相手が若い場合は、少し上から撮るとフレッシュさが出る。上から見ると笑っているように見えるのだ。

Point 1 外部ストロボがある場合

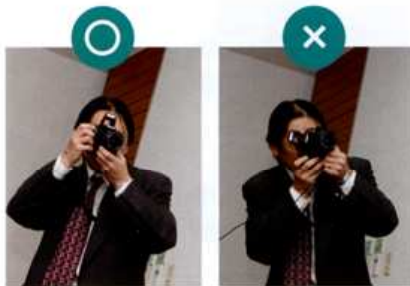
ストロボの光を天井ではね返す



私たちは普段、太陽や室内灯などの光が上から浴びる世界を見ていますので、写真でも上から光が当たっていると自然に見える。外部ストロボがあれば天井で光を反射させることで上から広い光を当てられる。

Point 2 内蔵フラッシュを使う場合

フラッシュの位置に気をつける



内蔵フラッシュを焚く場合はその位置に注意する。横からの光は影を出すからだ。一眼レフの場合は横位置で撮る。コンパクトデジタルカメラなら、フラッシュがレンズよりも上になるように構えよう。

小物

あると便利！ 周辺アクセサリ

ISO感度の調整や露出補正ができるとはいえ、基本的にカメラは光をコントロールできないと考えよう。そのため重要なのは撮影場所選びだが、撮影を助けてくれる便利な周辺機器もある。部署で持っておいてもいい。



「スピードライト 430EX II」

34,650円(税込、ケース付)

コンパクトながら大光量を誇る外部ストロボ。EOS デジタル対応の色温度情報通信機能、画面サイズ対応ズーム機能を搭載。光のコントロールを助けてくれる。



「円偏光フィルター PL-C」

8,400円～(税込、レンズサイズによる)

光沢の強いものを撮影する場合、偏光フィルターを使って反射光を抑えるという手もある。撮影する機会が多い場合は、導入を考えるといいだろう。

機種

まずは カメラを 選びましょう

とっさの撮影ではカメラ付携帯電話で対処する人も多いだろう。だが、情報を扱う編集者としては、それだけに頼るのは心もとないものだ。自分のスタイルに適したカメラを選びたい。利便性を考えるとやはりデジタルカメラだろう。

せっかくカメラを買うなら。



デジタル一眼レフ

「CANON EOS Kiss X2」

ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックス AF・AE カメラ
画素数：約 1220 万画素
最高約 3.5 コマ/秒 (1 枚撮影可能)

ネタに遭遇。
さっと取り出すコンパクト。



コンパクトデジタルカメラ

「CANON IXY DIGITAL 3000 IS」

画素数：約 1470 万画素
光学ズーム¹⁾ : 3.7 倍 (36 - 133mm)
映像エンジン: DIGIC 4
撮影可能枚数²⁾ : 約 280 枚
充電時間 : 125 分

¹⁾ : 1 焦点距離 35mm フィルム換算
²⁾ : CIPA 測定法準拠・液晶モニター表示時